



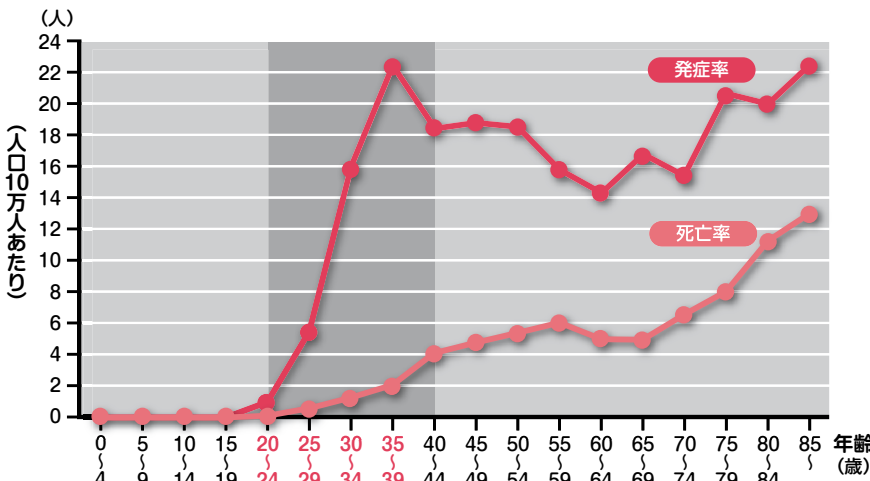
しきゅうけいがん
子宮頸癌と

子宮頸癌予防ワクチンについて

齋藤産婦人科医院 (☎0267-62-0823)

齋藤 英樹 院長

子宮頸癌の発症率と死亡率(日本人女性)



国立がんセンターがん対策情報センター
発症率2001年、死亡率2005年データ

子宮頸癌とは

産婦人科領域に多い癌は、子宮の入口に発生する子宮頸癌、子宮内膜より発生する子宮体癌、卵巣癌の三つであり、その中でも最も多い癌が子宮頸癌です。子宮頸癌の発生にはヒトパピローマウイルス(HPV)が関与しており、性交渉の経験がある女性であれば、ほとんどの女性が一生に一度は感染するといわれています(しかし、このウイルスに感染しても多くの場合、ウイルスは体内から消えます)。子宮頸癌の症状は不正性器出血ですが、初期癌ではほとんど症状がなく、検診で癌が見つかるケースが多くなります。治療は手術と放射線が主になります。初期に発見

できれば多くの場合子宮を温存する事ができますが、進行すると子宮全体の摘出などの手術になってしまいます。発症年齢も30~50歳の方が多いですが、20歳以上の方はもちろんの事、70歳以上の方も多くみられるため、高齢者の方も是非検診をおすすめします。産婦人科はしきいが高く受診しづらい方も多くいらつしやると思いますが、一人で受診しづらい方は、お友達同士で、親子で受診してみてください。

子宮頸癌 予防ワクチンとは
2009年12月より日本でも販売開始されたワクチンですが、このワクチンで最も大

切な事は100%子宮頸癌が予防できるワクチンではないという事です。さらに、予防ワクチンであり治療ワクチンではありませんので、定期的な検診は必ず必要となります。前述したように、子宮頸癌にはHPVが関与しており、そのHPVにもいろいろなタイプがあります。その原因のタイプの約60~70%を占める2種類のタイプ(16型、18型)のHPV感染を予防します。最も適した接種対象者は性交渉経験前の女性(接種年齢は11歳以上)ですが、性交渉経験のある女性も分娩歴のある女性も十分な効果が得られます。(性交渉経験者はワクチン接種前に検診をおすすめします)。あくまで癌予防ワクチンですし、小児の一般的な予防接種とはかなり意味合いが違います。さらに、非常に高価なワクチンですので(3回接種し、計5万円前後)、わからない事は何でもいくつでも医師に質問し、納得の上接種してください。



切な事は100%子宮頸癌が予防できるワクチンではないという事です。さらに、予防ワクチンであり治療ワクチンではありませんので、定期的な検診は必ず必要となります。前述したように、子宮頸癌にはHPVが関与しており、そのHPVにもいろいろなタイプがあります。その原因のタイプの約60~70%を占める2種類のタイプ(16型、18型)のHPV感染を予防します。最も適した接種対象者は性交渉経験前の女性(接種年齢は11歳以上)ですが、性交渉経験のある女性も分娩歴のある女性も十分な効果が得られます。(性交渉経験者はワクチン接種前に検診をおすすめします)。あくまで癌予防ワクチンですし、小児の一般的な予防接種とはかなり意味合いが違います。さらに、非常に高価なワクチンですので(3回接種し、計5万円前後)、わからない事は何でもいくつでも医師に質問し、納得の上接種してください。

